

令和元年度 特色ある教育・経営の取り組みを行う私立学校の事例集

とくしまで学び、育つ地域貢献人材

学校法人四国大学
四国大学

〽四国大学〽

四国・徳島 四国4県の東部に位置するこの地の中心、徳島市のJR徳島駅からバスで約15分、四国の代表的な河川の一つ、吉野川のほとりに四国大学・四国大学短期大学のキャンパスが現れます。

学校法人四国大学の前身である徳島洋服学校は、大正14年、この地に創立されました。建学の精神には、「全人的自立」を掲げます。

「全人的自立」とは、知識・技術の習得とともに、人間的な成長を志向し、社会に貢献できる実践的な力を確立することです。創立から95年、現在では、大学院・大学・短期大学・幼保連携型認定こども園を擁する総合大学園です。

【先進的地域貢献大学】

四国大学では、大学の最も重要な使命は、社会において有為な人材を育てることと考え、そのための大学改革を計画的に進めています。

教育内容や質の向上、地域教育の充実、徳島名産の「阿波藍」の新たな価値創造を目指した研究などに取り組み、「先進的地域貢献大学」として地域社



正門から見た四国大学キャンパス

会からの信頼を集め、地元自治体・企業からも期待が寄せられています。

【COCC事業による人材育成】

当大学は地元出身の学生の比率と地元就職希望者の比率が高く、それゆえ地域貢献人材の育成は、当大学の教育研究活動の柱といえます。

人材育成策の一つは、平成26年度に文部科学省の大学COCC (Center Of Community) 事業の「地(知)の拠点整備事業」に採択された、「とくしまで学び育てる地域貢献型人材育成事業」による事業です。

COCC事業への採択は、徳島県内の大学では初、四国の中でも、私立大学としては初めてでした。

事業の趣旨は、学生が実際に地域社会に入り、地域の実情を体得することで、地域の課題等を見出し、自治体や地域住民と協働して課題等の解決のための取り組みを行うというものです。

そのために、県内の西部(美馬(みま)市)、南部(美波(みなみ)町)、中央部(勝浦町)の3か所に「スーパーサテライトオフィス」を設置して、学生・教職員・地域住民・自治体の連携拠点としました。

事業の一例を挙げると、美馬市では、「美馬市観光交流センター事業推進研究」として、和傘づくりの伝承活動と普及活動を行いました。美波町では、「県南地域づくりキャンパス事業」として、特産品を使った創作料理づくりや、廻船問屋、寺院、旧家の文化財の調査などを行いました。このほかにも、複数の活動を行ってきました。

COCC事業の補助期間は平成30年度で終了しましたが、この期間に行った事業の多くは、平成31年度以降も当大学独自で取り組む事業として継続しています。「スーパーサテライトオフィス」も連携拠点としての機能を高めています。

【人材育成の推進体制】

当大学では、地域貢献人材育成のた

めの全学的な推進組織として、地域教育・連携センター(愛称「SUDACHI推進室」)を設置し、「教職協働」で学生を支援しています。センター長には、松重和美学長自らが就いています。

「SUDACHI」とは、Shikoku University Dream Achievement (四国大学夢実現)の頭文字を組み合わせた言葉で、徳島県の名物「すだち」にかっけたものです。

【教育改革プログラム2014】

当大学では、平成26年度にカリキュラム改革として、「教育改革プログラム2014」を実施しました。

この時に、全学必修科目の「自己と社会・地域論」を創設しました。徳島県の地場産業の歴史や特徴、地域貢献活動の目的や必要性を学ぶものです。



四国大学校舎と吉野川の流れ

この科目の受講によって、学生が地域の中で支えあうことの大切さを知り、地域貢献活動へ積極的に参加するようになることを目的としました。

さらに、全学共通科目の教養科目群に、次の「地域学分野」を設定しました。
 ・「徳島の歴史と文化」 地元徳島に親しみ、理解し、再発見することで、新たな強い地域づくりに参画する意欲を育む

・「四国いやしの道」 四国遍路が人々にとってなぜ「いやしの道」となるかを理解する

・「災害と防災」 社会の防災力を高めるための意識と知識を身に付ける

・「地域創生入門」 徳島の新たな面を発見し、未来に向かって広がる可能性を多角的に見つめる

・「地域未来探求」 地域における暮らしを取り巻く環境を理解し、未来の地域づくりに参画できる人材育成を目指す

・「消費者市民社会」 消費者トラブルから自分を守る知識を身に付けることを学ぶ

専門科目では、地域企業等による授業の展開、インターンシップの鼻的・質的充実を図りました。

【地域教育プログラムの作成】

平成29年度には、「教育改革プログラム2014」の科目を基礎とした「四国大学地域教育プログラム」を作成し、

地域教育のさらなる充実を図りました。

このプログラムでは、これからの地域社会で、地域創生を担う学生が身に付けることが必要な科目を体系的に整理し、地域の課題解決のための知識や技術を修得することを目指しています。

上記の「地域学分野」の6科目を、全学共通科目として組み込んでいます。

また、学生の地域での自主的な活動を奨励するために、自由科目として、

「地域貢献・ボランティア活動Ⅰ」、
 「地域貢献・ボランティア活動Ⅱ」、
 「地域企業等研究活動」を設定しています。

また、学生の地域での自主的な活動を奨励するために、自由科目として、



地域における学生の活動の様子

【地域活動の実施と評価】

自由科目の履修登録と進捗管理は、

地域教育・連携センターが担当します。学生は、当センターから活動時間を記録する「SUDACHICARD」の

交付を受けた後に地域活動を始めます。

カードには、活動1時間につき、押印を1個受け取ります。押印が60個になると、学生は活動を報告書にまとめ、所属学科・専攻のチューターの教職員に提出します。チューターは、内容の精査と学生からの説明により、その活動が、当大学が期待するものとして評価できるかを判断します。評価できると判断すれば、単位認定する手続きを行います。

優れた活動には「地域貢献活動等優秀賞」の表彰制度を設けています。平成30年度は、5名が対象となりました。

平成27年度に大学COO+事業に採択された『とくしま元気印イノベーション人材育成プログラム』も、当大学での地域貢献人材の育成策の一つです。この事業の代表校は徳島大学で、それに当大学を含む県内の高等教育機関5校が参画し、次のプログラムを中心に、人材育成に取り組んでいます。

【COO+事業での人材育成】

①ビジネスサークル「とくしまサイコ塾」

②とくしま学生ビジネスプラン道場

③社長のかばんもち

④チャレンジショップの運営

これらの学びのフィールドは、いずれも経営の現場です。

学生は経営の現場を実際に体験することで、地域の働き手として求められる素養を身に付けていきます。

今回お話を伺った中で、松重学長の「大学が存在することが、その地域にとって重要である」という言葉が印象に残りました。

当大学が行う地域での諸活動、地域に貢献する人材の育成は、大学と地域との関係のあり方を明らかにしていると考えます。



とくしま学生ビジネスプラン道場での発表

【取材を終えて】

「地を学び、知を纏う」。学生は地域の課題解決のための道筋を学び、それを知力に変えて、社会へ巣立ちます。

吉野川は海へと流れ、やがて徳島の食の源となります。当大学の学生は地域に溶け込み、やがて徳島を支えていく一人となつていきます。今年もすがすがしく実ったようです。

(取材) 私学経営情報センター